

殺虫剤の作用機構分類（IRAC）および薬剤の系統等

区分	一次作用部位	IRAC コード	サブグループ又は代表的有効成分	備考
殺 虫 剤	神経作用	1A	カーバメート系	カーバメート系
	神経作用	1B	有機リン系	有機リン系, (殺ダニ, 殺線虫)*
	神経作用	2A	環状ジエン有機塩素系	
	神経作用	2B	フェニルピラゾール系（フィプロール系）	フェニルピラゾール系
	神経作用	3A	ピレスロイド系・ピレトリン系	ピレスロイド系
	神経作用	3B	DDT・メトキシクロル	
	神経作用	4A	ネオニコチノイド系	ネオニコチノイド系
	神経作用	4B	ニコチン	
	神経作用	4C	スルホキシイミン系	
	神経作用	4D	ブテノライド系	
	神経作用	4E	メソイオン系	
	神経作用	4F	ピリジリデン系	
	神経作用	5	スピノシン系	スピノシン系
	神経作用および筋肉作用	6	アベルメクチン系・ミルベマイシン系	マクロライド系, (殺ダニ)*
	成長調節	7A	幼若ホルモン類縁体	
	成長調節	7B	フェノキシカルブ	
	成長調節	7C	ピリプロキシフェン	IGR
	その他の非特異的阻害剤	8A	ハロゲン化アルキル系	殺線虫
	その他の非特異的阻害剤	8B	クロルピクリン	
	その他の非特異的阻害剤	8C	フルオライド系	
	その他の非特異的阻害剤	8D	ホウ酸塩	
	その他の非特異的阻害剤	8E	吐酒石	
	その他の非特異的阻害剤	8F	メチルイソチオシアネートジェネレーター	殺線虫
	神経作用	9B	ピリジン アゾメチン誘導体	
	神経作用	9D	ピロペン系	
	成長調節	10A	クロフェンテジン・ジフロビダジン・ヘキシチアゾクス	殺ダニ
	成長調節	10B	エトキサゾール	殺ダニ
	中腸	11A	<i>Bacillus thuringiensis</i> と生産殺虫タンパク質	生物農薬（BT）
	中腸	11B	<i>Bacillus sphaericus</i>	
	エネルギー代謝	12A	ジアフェンチウロン	
	エネルギー代謝	12B	有機スズ系殺ダニ剤	
	エネルギー代謝	12C	プロパルギット	殺ダニ
	エネルギー代謝	12D	テトラジホン	殺ダニ
	エネルギー代謝	13	ピロール・ジニトロフェノール・スルフルラミド	
	神経作用	14	ネライストキシン類縁体	ネライストキシン系
	成長調節	15	ベンゾイル尿素系	IGR
	成長調節	16	ブプロフェジン	IGR
	成長調節	17	シロマジン	IGR
	成長調節	18	ジアシル-ヒドラジン系	IGR
	神経作用	19	アミトラズ	殺ダニ
	エネルギー代謝	20A	ヒドラメチルノン	
	エネルギー代謝	20B	アセキノシル	殺ダニ
	エネルギー代謝	20D	ビフェナゼート	殺ダニ
	エネルギー代謝	21A	METI 剤	殺ダニ
	エネルギー代謝	21B	ロテノン	
	神経作用	22A	オキサジアジン	
	神経作用	22B	セミカルバゾン	
	脂質合成、成長調節	23	テトロン酸およびテトラミン酸誘導体	殺ダニ
	エネルギー代謝	24A	ホスフィン系	
	エネルギー代謝	24B	シアニド	
	エネルギー代謝	25A	β -ケトニトリル誘導体	殺ダニ
	エネルギー代謝	25B	カルボキサニリド系	殺ダニ
	神経作用および筋肉作用	28	ジアミド系	ジアミド系
	神経作用	29	フロニカミド	
	神経作用	30	メタジアミド系・イソオキサゾリン系	
	神経作用	32	GS-オメガ/カップハXTX- Hv1a・ペプチド	
	神経作用	33	アシノナビル	殺ダニ
	エネルギー代謝	34	フロメトキン	
	タンパク質合成抑制	35	レドプロナ	
	神経作用	36	ピリダジン・ピラゾールカルボキサミド	
	神経作用	37	オキサゾスルファイル	IRACコードVer11.3による
	作用機構が不明あるいは不明確	UN	アザジラクチン ベンゾキシメート ベンズピリモキサン ブロモプロピレート キノメチオナート ジコホル ピリダリル 硫黄 石灰硫黄合剤 マンゼブ	

※1 クロップライフジャパンが、IRAC殺虫剤作用機構分類（Ver.11.1）を引用・改変して作成した「IRACコード表日本版（Ver.11.1）」（2024年3月現在）を引用・改変した。また、オキサゾスルファイルについては、IRACコードVer11.3による

※2 IRACは、防除においてコードが異なる薬剤をローテーション散布することにより、同一作用機構の薬剤の連続使用を避けることで、交差抵抗性のリスク低減できると提唱している。

※3 備考の()*は一部の薬剤によるものである